



■被災地出張授業 …… 9月19日開催

これからの社会で求められる人材

講師：北城 恪太郎 元代表幹事(日本アイ・ビー・エム 相談役)

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる被災地出張授業が行われた。今回は、北城 恪太郎元代表幹事が岩手県立釜石商工高等学校を訪れ、1・2年生約250名を対象に、社会で求められる人材や能力、また高校時代にやっておくべきことについて語った。



働くことは社会に貢献し 人々の役に立つこと

働くとはどういうことか。例えば、「ご飯」について考えてみましょう。ご飯を食べるには、スーパーなどでお米を売る人が必要です。それから、もちろんお米を作っている農家の人がいます。より効率良くお米ができるように耕運機などの機械を作る人がいます。その機械の材料となる鉄を作る人、その鉄を運ぶ人がいます。このように、人々が快適に、豊かに暮らすために、実にさまざまな仕事があるのです。つまり、どんな仕事も大切な仕事だということを理解してください。

働くことの意味は、社会に貢献し、人々の役に立つということです。また、社会に貢献することで収入を得て自分や家族の生活を支えています。それから、働くことによる達成感、誰かの役に立っているという喜びを得ています。これらが、働くということなのです。

グローバル化が進み イノベーションが必要になる

日本は今後、ますます人口が減っていきます。一方、中国やインドは人口が増え国も成長していくことが予想されています。そこには大きなマーケットができます。今、世界中の国がそのマーケットに進出して競争が始まって

います。これがグローバル化の一つです。これからは、世界の人々と仕事をするようになるでしょう。

このような社会の中で、必要とされているのがイノベーションです。これまでにない、新しい商品やサービスを開発すること。新しい価値を創造することです。そのためには、今ある仕事をするだけでなく、自ら考え、課題を発見し解決する力が必要となってきます。

企業が新卒採用をする際、面接などでどのような能力を重視しているのかアンケート調査を行いました。

1位は熱意・意欲のある人です。2位は行動力・実行力のある人。3位はチームワーク力のある人です。決して成績が良い人を重視しているわけではありません。これらは社会人基礎力として最も求められている能力で、イノベーションを起こすのに必要な能力ということでもあるのです。

もちろん、基礎学力も大切です。特にグローバル化で大切なのは日本の歴史や文化について学ぶことです。つまり、外国の人に日本の歴史や文化をきちんと説明できるかどうかです。それから高い倫理観を持つことです。人が見ているところでは、みんな正しいことをします。しかし、人の見ていないところでも正しいことができるかということです。国際社会でもこのことは重要なことなのです。

明るく、楽しく、前向きに

皆さんへの期待として三つお話しします。まず「一芸に秀でよ」ということです。スポーツでも勉強でもなんでも構いません。好きな分野で得意なことを身に付けてください。次に「人生にはきっかけがある」ということです。きっかけをつかんだら、取りあえず進んでみてください。だめだったら、やめればいい。まずは行動することが大切です。

そして「自らの人生は自ら決めよ」。これから、先生や保護者の方からいろいろなアドバイスをもらおうと思います。しかし、最後に決めるのは自分です。あのとき、先生の言うとおりにしたから失敗したなどと言いついてはしないでください。自分で決めたら、自分の責任で、人生を歩んでください。

最後にこれだけは覚えておいてください。「あ・た・ま」です。つまり「あ：明るく」「た：楽しく」「ま：前向きに」です。試験の成績が悪かったり、やりたいことが見つからなかったりしても落ち込まず「あ・た・ま」でいてください。ハーバード大学の先生が言っていました、成功したら幸せになるのではなく、いつも幸せに思っている人が結果的に成功しているのです。「あ・た・ま」を忘れないでください。

生徒との質疑応答



Q 高校時代は何をしていましたか？

A 高校3年間は、暇があれば英語の勉強をしていました。英会話クラブにも所属していましたし、同じ洋画をせりふを覚えるくらい何回も観ました。これは就職してから役立ちました。実は中学生のとき、尊敬する先生に英語の成績が悪いと指摘されたことがきっかけになっています。

Q 尊敬している人は誰ですか？

A 一人挙げるとすれば福沢諭吉です。彼は初めオランダ語を勉強していたのですが、ペリーが来てこれからは英語だと、勉強をし直しました。ここがすごいところです。挑戦していたことがだめだとなると、すぐに切り替えて新しい挑戦を始めたのです。

Q 今の目標や夢はありますか？

A 若い人を育てることとベンチャー企業を育てることです。今、二つのベンチャー企業の社外取締役になっています。一つは5、6人の会社、一つは20人くらいの会社です。ソニーもユニクロも楽天も初めはベンチャー企業、小さな会社でした。今かかわっている仕事を通じて、若い人、若い会社を育てることが夢です。

Q 甲子園を目指していますが、どうすればチームは強くなりますか？

A 会社のチームづくりと同じだと思います。まず、目標をつくること。次にどうすれば、その目標を達成できるか、具体的な手段を考え、実践すること。そして、頑張っている人をほめることです。人は叱られるより、ほめた方がやる気を出すものです。

Q どうしたら、社長になれますか？

A 「あ・た・ま」を忘れずに努力してください。私は会社では出世が遅く、ずっと下積みの仕事をしていました。でも楽しかった。その場、その場で努力して、今につながっています。幸運をつかむには、準備が必要です。それを怠ると幸

運が来たことにも気付きません。

Q 努力すれば、必ず成功しますか？

A それは分かりません。でも、努力をしないよりはした方が成功する可能性が格段に高い。大切なのは努力を続けること。そして、だめだったら、切り替えて次の努力をすることです。前向きに努力していれば、必ずチャンスは訪れます。

Q 好きなことでも努力してだめだったら、あきらめも肝心ということですか？

A それは、そのとき自分で考えるしかありません。特に仕事の場合は、努力しても成果が出ないこともあります。仮にあきらめても、次のことに挑戦することが大切です。



生徒の感想

●働くということは素晴らしいことなのだなと思った。私たちが豊かに生活できているのは働いている人のおかげで、どんな仕事も社会に貢献し、役に立っていることが分かった。今回のこの授業を受けて、働くのは楽しそうだなと思った。「自分にとって興味があり、達成感を得られる分野の仕事に就くことは人生を豊かにする」という言葉が一番印象に残った。

●「人に負けないくらい努力をすれば、きっと何か成果が出る。自ら学ぼうとする意志が大切」という言葉が印象に残った。今までの自分は努力もしないで文句ばかり言っていた。「努力をした者が幸せをつかむ」と聞いて、これからは失敗を恐れず努力してみようと

思った。夢をかなえるまで、あきらめないで努力したい。

●「最初から才能があるわけではない」という言葉がすごく励みになった。自分も簡単にあきらめずに日々前向きに成長したい。「一芸に秀でよ」の言葉どおり、すべてを頑張れなくても、自分の得意なものを伸ばしていきたいと思った。

●自分は将来就きたい仕事明確になく、周りの人に置いていかれる感じがしていましたが、今回の話で、自分の周りの仕事に興味を持ってみようと思いました。自分が関心のある仕事を見つけて、それに向かって努力し続けていきたい。「あ・た・ま」を忘れずに生活していきたいです。

●格太郎さんはいろいろな経験を積んできた方だと思いました。質疑応答でた

くさんの質問に対して、すべて中途半端な答えではなく、自分の経験を踏まえて答えてくれました。私もいろいろな経験をし、教えてあげられるようになりたいです。

●講演会の中で社会が必要としている人材がどのようなものか知ることができました。これからは興味を持ったことなどには自分の意見をしっかりと持ち、積極的に行動していきたいと思いました。自分の将来についてもっと深く考えてみることに、自分の意見を持つこと、人の意見も大切にし、明るく、楽しく、前向きに生活していきたいです。

●高校生活での自由な時間をどのように使っていくかで、これからの人生が変わっていくのだと思いました。いろいろなことにチャレンジして、自分を高めていきたいです。